

銅賞

だからこそ自信におもって

横須賀市立久里浜中学校三年

陳 侑 里

小学生の頃本当に自己紹介が嫌いだった。特に恥ずかしいとかの理由ではなく、他の人とは違う名字だという理由で。私は日本で産まれた在日韓国人であるがなぜ嫌いであるかと言うと、名字はどちらかと言えば中国寄りで韓国人だと思われないことが一つ、もう一方は日本語の場合は下品な言葉に関連してしまうからであった。自己紹介だけではなく、何かあって全校で自分の名字が呼ばれる、病院で名前が呼ばれる、とにかく名字が誰かに聴かれることが大嫌いだった。

私の名字は日本ではないので直に覚えてくれることは長所であるが短所でもある。小学校低学年の頃は学校に登校する度に名字で馬鹿にされ、学校でも馬鹿にされと小学生ながら酷い日々を送っていた。男子には「中国人のくせに調子のるな」とかそんな言葉を浴びさせられたけど母は私に同感してくれ「次そんなこと言われたら無視しちゃいな」とか声を掛けてくれたり、先生・友達が励ましてくれたお陰で「学校に行きたくない」とは一度も思わなかった。

ある日、父は自分の過去について話した。

「父も小さい頃近所の人に馬鹿にされ朝鮮に帰れ、帰れ！と言われたよ」と言うが透かさず「でも通称名使ってたんでしょ、私はこの名字どれだけ馬鹿にされ続けてきたのに、どうして私には通称名がないの」と聞いた。

「通称名は自分を隠している。そんな人生ではいけない。自分に自信を持って堂々と生きなくては。」と父は言ったがその当時、私には理解できないまま時間が過ぎていった。

時が過れば様々な情報・知識が入る。そのときに分かったことが「自分以上に酷いことをされたり、大変な人々が世界にはいる」と。

世界では皮膚の色・性・宗教・国籍・政治的見解や今までの歴史などが関係して差別が生まれている。相手を受け入れられないことで、どれだけ人の人生が奪われ、傷つき、貶され、光を閉ざされただろうか。

ある日のこと。私の目の前にいる人はある場所を探していて困っていたのだろう。しかし私は助けられず見て見ぬ振りをした。家に帰っても、どうも心の中で引つ掛かるものがある。「助けてい」と気持ちはあるけれど、「自分が恥をかいたら？」と弱い気持ちに負けて

しまった。きっとそれは周りの目を気にし恐れているだけで、困っている人の気持ちまで考えられていなかった。

このとき父が言っていたことが頭を過った。

「自分に自信を持って堂々と」やつとあのときの意味が分かったのだ。周りなんか流されず自分の意志を貫き通せ、そんな意味があり、今振り返ると助けもせず見て見ぬ振りをしていた自分が恥ずかしい。多分こんなことの繰り返しが悪循環になり、いじめや差別に繋るのではないだろうか。いじめ・差別を受けた人、私もそうであるようにその後どんな素晴らしいことがあるとも、そのことは一生忘れることはないだろうし、傷は治らない。

私は今までの経験があるからこそ自分に堂々と解うことができる。人を差別して何か変わることがあるのだろうか。お金持ちになり裕福な生活が送れるのか。自分が自由の身にも成れるのかと。返事はいつも「NO」。そんな都合の良い訳がない。ただ単に自分の心を汚していくだけ。

あなたは人権差別を受けたことがあるかもしれないし、これから生きていく上で被害を受けるかもしれない。可能性が100%無いとは断言できない。それは周りにそのような環境にいる人が存在し、

苦しむ人がいるから。だけど私たちはそれらを変えられる。

だからどんなささいなことであろうとも助けることに恐れず恥ずかしいなんて思わないで。そんなときは「もし自分だったら」と自分に立場を置き換えて答えかけてほしい。そうすればきつと答えは直に返ってくる。

苦しんでいる人の痛みをみんなの痛みに、そして自分の痛みに。

私はこの名字で後悔はしていない。逆に生きていく上での大切さを教えてくれた。この名字に誇りに、悲しみ苦しむ人に手を差し伸べていきたい。